

ばらネット・にしお

つながりをつなげる

今年度の活動のうち、10月に日本女性会議への参加、11月に小牧市の「ウィメンズネットこまき」との交流会、12月に西尾子ども食堂を見学と、久しぶりに他団体との交流をして、ばらネットの活動を見つめ直すきっかけとなりました。



西尾子ども食堂の見学

2022年12月17日
西尾市総合福祉センター

準備風景

19歳～78歳までの方がボランティアに参加され、和気あいあいとした雰囲気の中で、準備が進められていました。最高齢ボランティアの本郷さんも生き生きと活動されており、その姿から子ども食堂の新たな魅力を感じることができました。



企業や個人からの協力



様々な企業が子ども食堂開催に協力しており、利用者への配布物を提供しています。また、個人からの寄付で集まった野菜や果物を配布や調理に活用しています。

この日は、クリスマス会も行われており、子どもたちはビンゴ大会、ビーズ作り、折り紙作りなどを楽しんでいました。ボランティアさんは楽しそうに子どもたちとふれあい、ボランティアさんと話す子どもたちも安心している様子で、子どもたちの居場所として機能している事を感じました。



もくじ

- * 子ども食堂見学報告・アンケート
～多くの人に届けたいハナシ～ P1・2・3
- * 日本女性会議2022in鳥取くらし参加報告 P3
- * 令和4年度男女共同参画推進事業活動報告 P4

西尾市男女共同参画情報誌は、市民活動グループばらネットと行政との協働により作成しています。

「男女共同参画」

子ども食堂を見学 ～多くの人に届けたいハナシ～

現在、全国で広がりつつある子ども食堂。その目的は、子どもの貧困を救済する食事の提供だけでなく、食育、子どもの居場所作り、孤食の解消、地域交流の場づくりなど、多岐にわたります。

「おいしく たのしく なかよく!」そんな輪の広がりを願って2020年6月に活動を開始した西尾子ども食堂の小嶋隆正代表にお話を伺うとともに、市内の子ども食堂に関わる方にアンケートを取りました。子ども食堂の活動を通して「心豊かに暮らせるまち・にしお」の実現を考えます。



Q なぜ子ども食堂を開催しようと思いましたか

- A ● 全国的な流れを見るなかで、子どもの内7人に1人は貧困家庭であり、行政ではなく市民がやることはないかと考え、開催することに至った。最初は市が行っている低所得家庭の中学生の学習支援サポートスクールに参加している子ども達を対象に始めた。
- 自分が子育てをしている時に、悩みなどを共感して話せる場所がほしかった。母子家庭の頃は、少しでも誰かの助けがあれば子育てももう少し心の余裕が持てたのではないかななどの思いから。
 - 様々な困難を抱えている子も自然と集まれるような場をつくりたい。思い出づくりや地域との交流を持つことであたたかい気持ちになってほしいと思う。地域のより良い未来を願って。

Q 子ども食堂を開催してよかったと思う事を教えてください

- A ● 支援の必要な人がたくさんいる事を知り、その方々に出会えたことが良かった。また、多くの支援してくださる方にも出会い、支えられていることに感謝している。
- 居場所作りができており、子ども達が生き生きしてくれている事が嬉しい。
 - 子どもが楽しそうにしていると嬉しいし、子どもといると楽しい、元気がもらえる。
 - 子どもの笑顔がたくさん見られて良かった。
 - 色々な繋がりができ、中学生が食堂をのぞくようになってくれて、スタッフと自分の将来について話している事。
 - 利用して下さる方が笑顔でみなさんと楽しくお話をされている姿。



Q 子ども食堂の活動への課題と願い

- A ● 子ども食堂を知ってもらうための広報活動をして、子ども食堂の敷居を下げること。
- 開催場所や食材を保管する場所が少ないこと。
 - 西尾子ども食堂には利用者が西尾市全域から来ていて、数が少ない。各小学校区に1つの子ども食堂があると良いと思う。
 - コロナがおさまれば困っている人だけでなく高齢者や地域の人々が集まれる場所にしたい。また、乳児と保護者が集まる場所も必要かと思う。
 - 本当に大変な思いをしている人に支援品が届いてほしい。

Q みなさんに協力してほしいこと

- A ● 色々な応援の仕方があるので、出来ることで応援してほしい。
- ※現在していただいている支援例
野菜や果物の持ち寄り、企業からの支援品提供、子どもと遊んだり食事づくりなど
- ボランティアさんがもう少し増えるととても助かる。
 - 地域の方たちも気軽に参加してほしい。

お忙しい中取材やアンケートにご協力くださった西尾子ども食堂様をはじめ
市内子ども食堂に関わる皆様に感謝致します。

子ども食堂の見学や取材を通して感じたこと

企業や個人からのたくさんの支援協力は、SDGsにも繋がっていることを感じました。企業や家庭で不要になったものを子ども食堂で生かすことでリユースしており、資源活用と支援が行えていることを知りました。

スタッフさんから「『あたたかいたまごやき』は当たり前ではないことに気づいた」というお話がありました。子ども食堂に参加する子どもから「たまごやきってあたたかいんだ。あたたかいたまごやきって美味しいんだ」という声を聞いたそうです。その言葉を聞き、「自分の尺度でしか考えていなかったが、ここに来て色々な環境におかれている人がいることに気付かされた」とのことでした。

また、家庭や学校でもない場所があることで「居場所の選択肢がたくさんあっても良い」という話も印象的でした。支援を受ける側もする側も双方の居場所として子ども食堂は機能されていることを感じた時間でした。私たちの思いでもある『つながり』の広がりや深まりを強く感じました。

私たちも市民として、子ども食堂の活動に自分にできる協力を積極的にしていきたいです。



日本女性会議2022 in 鳥取くらし ～だれもが共に笑顔になれる夢ある未来～ に参加して

男女共同参画をテーマにした「日本女性会議」は、女性を取り巻く課題の解決策を探るとともに、参加者相互の交流の促進や情報のネットワーク化を図ることが目的で行われています。今年度は2022年10月28日～30日に鳥取県倉吉市で開催されました。

参加者の声

9つの分科会では、日本の現状から、社会の現状を知り、課題を意識して私達に何ができるかを考え、参加した方々との交流の中で未来へ向けて一歩踏み出す勇気をもらいました。



記念シンポジウムでの鳥取大学女子学生たちの発表に対し、上野千鶴子先生は今回も端的明快な回答をして下さいました。「おんなが被害者であり続けることは、次の世代の加害者になる」ということばが印象に残りました。

ボランティアスタッフの数が多く活気ある大会でした。鳥取大学でジェンダー問題を学ぶ学生による発表、発表に対する上野千鶴子さんのコメントのやり取りが印象に残っています。

考え方や価値観の違いを否定するのではなく、受け入れてみんなで支え、助け認め合う社会の構築とテーマ（だれもが共に笑顔になれる未来）の実現に向けて多様な視点から男女共同社会が受け継がれていくことを願いました。

高校生、大学生の参画が目を引きました。中でも鳥取大の3人の女学生が登壇し、三人三様の生活経験から、ひとりでも生きていけそうなのか今後の生きざまを発表し、それに対して上野千鶴子氏の適確なアドバイスが見事でした。「わがままと権利の境はない」という主張は印象的でした。

令和4年度 男女共同参画推進事業 活動報告

第1回 ばらネットセミナー

日時 令和4年10月15日(土) 場所 一色地域交流センター

テーマ 『アンコンシャスバイアス』を知る・気づく・対処する ～一人ひとりの幸せを目指して～

講師 (社)アンコンシャスバイアス研究所 認定トレーナー 市川 麻波氏

「アンコンシャスバイアス(無意識の偏見)は、‘こうだ’と思うことで、決めつけや押しつけの言動にあらわれやすい。先入観や偏見を取り除けば、気づくことがあり、視野が広がり、未来が変わるかもしれない。100人が同じでも、101人目は違うかもしれないので、今、目の前の相手がどう思っているのかを考えることが、その人の幸せを考えることにつながる」との話を伺い、自分の行動を見直すきっかけとなりました。

視察交流会「ウィメンズネットこまき・ばらネット交流会」

日時 令和4年11月21日(月)

場所 西尾市役所多目的室

コロナ禍でしばらくできなかった他市との交流ですが、小牧市の男女共同参画活動団体「ウィメンズネットこまき」にお越しいただきました。ばらネット会員とお互いの活動を発表した後、グループワークで、お互いの問題点や改善点を話し合い、今後の活動につなげていくヒントをもらいました。



若年者啓発活動「デートDV」訪問授業

日時 令和4年11月30日(水) テーマ デートDV

昨年度に引き続き、市内高校を訪問し、校内放送によるデートDVのオリジナルラジオドラマを放送し、全校生徒にデートDVの理解を深めてもらうことができました。

若年者啓発活動「SNSとの向き合い方」訪問授業

日時 令和5年1月24日(火)

テーマ スマートフォンやSNSとの正しい向き合い方

市内小学校を訪問し、SNSの危険性について授業を行いました。子どもたちは熱心に話を聞いてくれ、危険を回避する方法を伝える事ができました。



ばらネット
会員を
募集します!



ばらネットは、女性の社会参画の推進、行政との協働、男女共同参画社会の実現を目的に、活動している市民グループです。各種団体の皆さん、個人での会員登録、男性会員も大歓迎です。私たちと一緒に活動してみませんか?

【編集・発行】 市民活動グループ ばらネット・西尾市

会長 手島とし子 編集委員 山崎裕子、坂部三枝子、牧 仁美

【問い合わせ先】 西尾市役所 市民部 地域つながり課 〒445-8501 西尾市寄住町下田22番地

TEL : 0563-65-2178 FAX : 0563-56-2175

E-mail: kyoudou@city.nishio.lg.jp



「ばらネット・にしお」
バックナンバーはこちら